

# 金沢市の中心市街地活性化への取り組みについて

金沢市 都市政策局 企画調整課 松本 尚人

## はじめに

金沢市は、本州のほぼ中央に位置する人口約46万人、面積約467km<sup>2</sup>の中核市であり、伝統文化が市民の暮らしの中に息づくとともに、豊かな自然や歴史的な美しいまちなみが残っています。

まちの基礎は、今から420年以上前、この地を統治した加賀藩主前田家によって確立されました。歴代藩主は、争いを避け、学術や文化を奨励したため、現在に至るまで、まちは戦禍に遭わず、往時の遺構やまちなみが、今も残されています。

金沢市では、このような旧城下町の歴史的な佇まいを保全する一方、駅西地域から金沢駅、まちの中心部へ至る都心軸を開発する「保全と開発の調和」を基本に、まちづくりに取り組んでいます。また、歴史遺産や伝統文化・芸能の保存、継承を図るべく、国から「歴史都市」の認定を受けるとともに、固有の文化を活かし創造的な産業を発展させている都市として、クラフト分野における「ユネスコ創造都市ネットワーク」にも加盟しており、歴史や国の内外に「責任と誇りを持てるまち金沢」の実現をめざしています。



町家再生活用事業

## これまでの中心市街地活性化基本計画の取り組みについて

藩政期からの細街路が当時のまま残っている中心市街地では、モータリゼーションの進展に伴う交通渋滞が深刻さを増し、また住宅地の郊外化により、低未利用地が増加するなど、まちづくりの課題が浮き彫りになってきました。このため、まちづくり3法が成立した平成10年に第1次中心市街地活性化基本計画を策定後、2次にわたって計画を推進してきました。法改正後は、平成19年5月～平成24年3月を計画期間とする認定第1次基本計画を策定し、定住の促進、商店街・ビジネス街の活性化、交流の促進などを通じて「人が住まい、集い、賑わう」中心市街地づくりを推進しました。

認定第1次基本計画における事業は、概ね当初の予定どおり完了し、数値目標についても、外的な要因による一部を除き、目標値をほぼ達成しました。総じて、来街者は増加傾向にあるとともに、中心市街地の人口はマイナス傾向が低減してきているなど、中心市街地の活性化に不可欠な定住及び交流人口の双方について、増加・改善がみられることから、中心市街地の活性化は、概ね図られてきていると考えています。

## 認定第2次基本計画の取り組みについて

認定第1次基本計画の実践を経て、これまでの成果をさらに伸張し、まちなかに一層の活力をもたらすため、平成24年4月～平成29年3月を計画期間とする新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、本年3月に国の認定を受けました。新計画では、金沢固有の資産を活かした「人が住まい、集い、つながる」中心市街地を目指し、積極的に新たな取り組みを展開していくこととしています。

### ①誰もが暮らしやすい中心市街地

まちなか住宅への助成では、戸建住宅の建設・購入への支援はもとより、今年度から「45歳未満の若年者世帯」への上乗せ助成対象事業を拡充するなど、空地・空家や共同住宅の空き住戸などの既存ストックを活用した支援も充実していくこととしました。また、金澤町家といわれる昭和25年以前の家屋の改修を支援することで、まちなかからの転出を抑制し、転入を促進していきます。

さらに、住宅や社会福祉施設、商業施設、広場等が一体となった金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業第三工区の整備では、4～12階の分譲住宅が販売早々に完売するなど、都心回帰の傾向がみられることから、平成25年3月の竣工をめざし、住みよい都市型居住環境を提供していきます。

加えて、障がいのある方や高齢者の日常生活における自立を支援する金沢福祉用具情報プラザ、地域の交流を促進する近江町交流プラザ等、暮らしを支える公共施設の運営をさらに充実するほか、市民活動団体からの公募で採用した事業を団体と協働で取り組む「協働のまちづくりチャレンジ事業」や「学生のまち推進事業」など、様々な交流活動を促進していきます。



金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業（第三工区）

### ②にぎわいと交流が生まれる中心市街地

金沢駅の利便性向上とにぎわい創出を図るため、平成26年3月の完成をめざし金沢駅西広場の再整備を加速するとともに、連続性のある拠点施設を整備するため、尾山町地区において、暮らし・にぎわい再生事業を活用し、にぎわい交流促進やまちなか情報発信のための施設を整備していきます。また片町地区においては、商業施設と公益施設からなる複合施設及びサロンや会議室、交流ホール等を備えた、学生と市民の交流拠点施設「金沢学生のまち市民交流館」を整備するほか、クラフト分野における新たなビジネス拠点として「生活工芸ショップ（仮称）」の運営を10月から開始することとしています。

このほか、都心軸を中心とする面的な拡がりを持つ商



尾山町地区暮らし・にぎわい再生事業

業集積の形成や、各地区の回遊性向上等の各種施策を進めるとともに、活力あふれるにぎわいの創出に向け、商店街のソフト・ハード事業の支援、空店舗対策、新たな交流を生み出す各種イベント開催等に引き続き支援していきます。

さらに、北陸新幹線の金沢開業による効果を最大限に引き出すため、官民組織「MICE推進協議会」を立ち上げ、国内外からの学会や企業研修などの誘致に積極的に取り組むほか、民間通信事業者と協力し、まちなかの観光施設やコンベンション施設、商店街などへの公衆無線LANの整備を促進するなど、交流人口増加のための施策を重層的に展開していきます。



金沢学生のまち市民交流館整備事業

### ③過度に自動車に依存しない中心市街地

まちなかの重要な公共交通のひとつである、循環型コミュニティバス「金沢ふらっとバス」や、金沢駅と中心市街地を結ぶ交通システムとして「まちなかシャトル」を運行するほか、新たに公共レンタベビーカー「ベビのり」の社会実験を実施するなど、市民や来街者にわかりやすく便利な公共交通環境を整え、中心市街地全体の回遊性向上と活性化につなげます。

また、まちなかにおける自転車の安全で快適な利用環境の向上と過度のマイカー利用を抑制し、交通渋滞を緩和するため、公共レンタサイクル「まちなか」の運営や

自転車走行空間の整備を進めていきます。

さらに、まちなか歩行回廊等の整備を計画的に進め、地域との協働により歩けるまちづくりを推進していくこととしています。



金沢ふらっとバス



公共レンタサイクル「まちなか」

## おわりに

平成 27 年春には、北陸新幹線の金沢開業を迎えます。その開業効果を最大限に引き出すため、平成 19 年に具体的な行動計画をまとめた「金沢魅力発信行動計画」を策定し、各種の施策に取り組んできましたが、開業まで 3 年を切り、開業年度の前後に特に重点的に取り組むべき施策をカウントダウン・ミッションとして打ち出しました。すなわち、都心軸の再整備等の促進を図るために、老朽ビルを近代化するための促進・支援を具体化するほか、定住促進への取り組みを強化し、首都圏の著名人に金沢でしか味わえない「金沢ふうライフ」を提案していきます。また、プロモーションの強化や開業に向けた気運の醸成に向けて、開業キャンペーンや開業記念イベントを計画的・戦略的に展開していきます。

いずれにしても、金沢市の拠点性を高め、より魅力的な都市となるためには、中心市街地の活性化は不可欠であり、認定第 2 次基本計画の推進に、鋭意取り組んでいきます。

(まつもと なおと)